

今号の  
トピックス

## 小学校低学年の「ネット健康リスク教育」いかに展開するか

### 急がれる学校教育での「ネット健康リスク教育」全体像

小学校でもタブレットが本格的に使われはじめており、目の健康問題が発生しています。本号では「ネット健康リスク教育」のカリキュラム開発について、その研究推進方法と、開発した小学校低学年向けの教材の紹介を、THInet 内容・教材開発委員長の 大谷が報告します。(編集部)

#### 「先進的情報モラル教育＝ネット健康リスク教育」とは

THInet 開発委員会と伊藤科研PTカリキュラム委員会は連携し、「先進的情報モラル教育＝ネット健康リスク教育」と銘打ちカリキュラム開発を進めています。

右枠のように、出前授業対象学年種を5つの階層にわけ、階層ごと教育内容を考え、スライド(教材)を制作しています。今年度は30校ほどで出前授業を行い、事後アンケートをとり、検証してきました。その検証の仕方も試行錯誤しながらですが、なんとかその方向性が見えてきました。

伊藤科研費による研究期間が2023年度で終了しますので何としても年度内に完成させ、文科省を始め関係機関に提言したいと考えています。

#### 小・中・高の学年の階層化

子どもの発達段階と健康や体についての履修学習内容を考慮し、12学年を5段階に区分しました。(①小学校低学年 ②中学年 ③高学年 ④中学校1・2年 ⑤中学校3年・高校)

従来の啓発スライドの開発対象は、中学校高学年か高校、保護者(大人)でした。教材開発に当たり、小学校低学年と中学年のスライド制作の難しさに直面しました。

### 小学校低学年での教材開発のポイント

授業演題「目にとってよい使い方を考えよう」 青森県八戸市立H小学校で研究授業(2022.11.24)

目についての知識を、用語・言葉で伝えても子どもは理解できません。そこで、体験(疑似体験・動画)を通して知り、働きの理解を促す方法を取り入れました。その教材(スライド)のいくつかを紹介します。そして、生じているリスクの事実とその対策を伝えました。



ここにトンボが。動  
画で舞い上がる



#### 学習指導案の一部「授業のねらい」

①みえる力(遠くが見える、見つける、ピントを合わせる、目で追いかける、どの位遠いかわかる)を体験と図でイメージできる。

②対策を図でイメージする。

- ①長時間使用にならない
- ②近業にならない
- ③20-20-20(6)
- ④太陽光を浴びる機会を増やす

詳細を知りたい方は、編集部まで問い合わせ下さい。現在、伊藤科研PTカリキュラム委員会で、報告書を制作中です。